



## 入選作品集

上映

10.15.Thu  
~24.Sat

京都大学 稲盛財団記念館1階  
映像ステーション  
(入場無料)

# Visual Documentary Project

— 東南アジアの今を見つめる —

京都大学東南アジア研究所では、2012年から、東南アジアの若手作家の映像ドキュメンタリー作品を募集し、優秀作品を選考・公開上映する「Visual Documentary Project」を展開しています。今回は、京都国際映画祭との連携企画として、2013年と2014年の入賞10作品を京都大学研究資源アーカイブ映像ステーションにて上映します。

連携上映：沖繩国際映画祭出品短編作品

## 地域発信型映画

京都国際映画祭と同じく吉本興業が主催する沖繩国際映画祭に出品された短編「地域発信型映画」から2作品を日替わりで上映いたします！

10/15(木), 17(土), 21(水), 23(金)  
2013年度VDP「多元共生」入選作品

タイのビルマ人(タイ)  
おもいやりを(タイ)  
\*カンボジア 赤線地区での暮らし(カンボジア)  
ベトナムの路上で(ベトナム)  
パマナ・遺産(フィリピン)  
沖縄語(うちなーぐち)(第5回沖繩国際映画祭出品作品)

10/16(金), 20(火), 22(木), 24(土)  
2014年度VDP「人と自然」入選作品

最後の世代(インドネシア)  
命を守るマングローブ(ミャンマー)  
山に響くこだま(タイ)  
沈黙の夏(ベトナム)  
おじいちゃんの水路は永遠にふさがれた(タイ)  
一粒の種~真太陽の島の大合唱~(第3回沖繩国際映画祭出品作品)



# Visual Documentary Project 入選作品集-東南アジアの今をみつめる- 上映時間

作品名		10月	15	16	17	18-19	20	21	22	23	24
		木	金	土	日、月	火	水	木	金	土	
通常上映	カラコルム ～カラコラム・ヒンズー クシ學術探検記録～	10:15	10:15	10:15			10:15	10:15	10:15	10:15	10:15
	花嫁の峰チョコリザ	11:45	11:45	11:45			11:45	11:45	11:45	11:45	11:45
	通常上映終了	13:00	13:00	13:00			13:00	13:00	13:00	13:00	13:00
タイのビルマ人		13:10	-	13:10		休館日	-	13:10	-	13:10	-
おもいやりを		13:25	-	13:25			-	13:25	-	13:25	-
カンボジア 赤線地区での暮らし		13:52	-	13:52			-	13:52	-	13:52	-
ベトナムの路上で		14:07	-	14:07			-	14:07	-	14:07	-
パマナ・遺産		14:25	-	14:25			-	14:25	-	14:25	-
運携「地域発信型映画」 沖縄語(うちなーぐち)		15:00	-	15:00			-	15:00	-	15:00	-
終了		15:30	-	15:30			-	15:30	-	15:30	-
閉館		16:00	-	16:00			-	16:00	-	16:00	-
最後の世代		-	13:10	-		休館日	13:10	-	13:10	-	13:10
命を守るマングローブ		-	13:25	-			13:25	-	13:25	-	13:25
山に響くこだま		-	13:42	-			13:42	-	13:42	-	13:42
沈黙の夏		-	14:03	-			14:03	-	14:03	-	14:03
おじいちゃんの水路は永遠にふさがれた		-	14:29	-			14:29	-	14:29	-	14:29
運携「地域発信型映画」 一粒の種 ～真太陽の島の大合唱～		-	15:00	-			15:00	-	15:00	-	15:00
終了		-	15:35	-			15:35	-	15:35	-	15:35
閉館		-	16:00	-			16:00	-	16:00	-	16:00

## 作品紹介

**タイのビルマ人** ビルマからやってきた“ジェット”は、バンコクで小さな商店を切り盛りしている。1日20時間はたらく彼の姿を通して、タイに住むビルマ人の日々の生活を見つめる。

**おもいやりを** “Kathoe”とはレディ・ボーイの意味。中学校に通うティは、家族、友達、先生に支えられて日々を暮らしているが、あるきっかけでマスコミに追い掛け回されることになる。タイの社会において、Kathoe はどのように受け入れられているのだろうか。

**カンボジア 赤線地区での暮らし** プノンペンに暮らす売春‘夫’の姿を捉える。日々直面する差別、セックス・暴力・ドラッグがはびこるプノンペンの赤いライトの下で、彼らはどのように生き、何を考え、どんな未来を見ているのか。

**ベトナムの路上で** ホー・チ・ミンのビジネス・ストリートでパフォーマンスを演じる‘鉛売りマイケル’ことディエン、‘音響技術者’のビィとティのカップル。ストリート・チルドレンたち。大小様々な夢をもちつつもなかなか抜け出せない貧しい暮らし。終わりはいつ来るのか。

**パマナ・遺産** フィリピン・ケソンでは多くのプロジェクトによる開発が進んでいるが、そのあおりを受けて、高地民族アグタ・ドゥマガットは祖先から受け継いできた土地を追われようとしている。彼らは、民族の知恵や文化を、なんとかして次の世代に遺そうと、様々な取り組みを行う。

**沖縄語(うちなーぐち)**: 言葉が文化を育てた。言葉には単語が持つ意味だけではなく、深いメッセージが潜んでいる。日常会話の中に沖縄人の生き方が伝えられているのだ。年々、その沖縄語を使う人は少なくなっているのが現実だ。沖縄に根ざし、沖縄語をあやつる5人の人物へのインタビューから構成されるドキュメンタリー作品。(第5回沖縄国際映画祭出品作品)

**最後の世代** インドネシアの大アチェ州の沿岸村における漁業資源の減少を描く。監督は、漁民たちに対して丁寧なインタビューをおこない、漁師による違法な漁業活動がもたらす影響を明らかにしてゆく

**命を守るマングローブ** ミャンマー・ラカイン州の岸部の村落は、毎年、洪水とサイクロンの被害に見舞われてきた。そこで国際援助団体が、シットウェーというタウンシップの二つの村に約 10,000 本のマングローブを植樹・育成した。現在、これが 5,000 人以上の命を守っている。

**山に響くこだま** タイ北東部、幹線道路からはるか奥地、電気すら通らない村で暮らす“PgazK’ Nyau”(素朴な人々)と呼ばれるカレン民族。取り巻く自然のなかで、かれらはどのように生き、何を考え、何を信じ、何を守ろうとしているのか。

**沈黙の夏** 町中の公園では、夏は繁殖期であるはずなのに、人々はセミや虫の鳴き声を聞くことがない。田舎の田園地帯では、殺虫剤や除草剤が振り撒かれ、子供達はもう自然が奏でる生命の声を聞くことがない。ベトナムの風景の中に起きている変化を、痛切に映し出す。

**おじいちゃんの水路は永遠にふさがれた** 小さなダムや水門を通り、水源からプーミボン・ダムへ次々と連なる堤防に沿って映し出される映像は、スプリット・スクリーンという革新的技術を駆使しつつ、川の変化がもたらす衝撃を位置づけるクルージングの旅へと、観るものを連れて行く。

**一粒の種～真太陽の島の大合唱～**: “一粒の種になりたい”ある末期癌患者の残した言葉をもとに、担当看護婦だった宮古島出身の高橋尚子さんと同郷のミュージシャン・下地勇さんがある曲を作った。「一粒の種」一人間の生と死を綴ったこの歌を、宮古島出身の歌手、砂川恵理歌がしまの人々と合唱することになった。お年寄りから子どもまで、実に336人が大集合。合唱が完成する一日の人々を追ったドキュメント映画。(第3回沖縄国際映画祭出品作品)

## 上映会場お問い合わせ

京都大学 研究資源アーカイブ 映像ステーション  
075-753-7741

## 上映内容お問い合わせ

京都大学 南西地区UR A室稲盛デスク (神谷)  
075-753-9603 / kamiya.tosirou.3m@kyoto-u.ac.jp

上映作品、上映時間は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

主催: 京都大学東南アジア研究所 企画協力: 吉本興業株式会社「京都国際映画祭」「沖縄国際映画祭」  
協力: 京都大学総合博物館 京都大学研究資源アーカイブ映像ステーション